

平成30年 核兵器廃絶市民講座
「核兵器のない世界をめざして」
核兵器廃絶長崎連絡協議会主催

核兵器禁止条約をめぐる日本の課題 賢人会議の提言

効果的な核軍縮への橋渡しー2020年NPT運用検討会議のための提案
(平成30年3月29日発表、河野太郎外務大臣へ報告)

日本赤十字社長崎原爆病院・名誉院長
「核軍縮の実質的進展のための賢人会議メンバー」
朝長万左男



Group of Eminent Persons for Substantive Advancement of Nuclear Disarmament

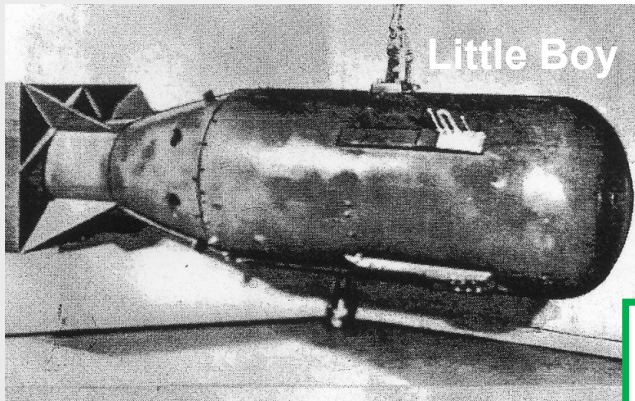
4. Group Members

Japanese Members

	Name and Title
	Chair : Takashi Shiraishi President, Institute of the Asian Economic Studies, Japan External Trade Organization (JETRO)
	Setsuko Aoki Professor, Keio University
	Masahiko Asada Professor, Kyoto University
	Yasuyoshi Komizo Chairperson, Hiroshima Peace Culture Foundation
	Masao Tomonaga Honorary Director, Japan Red Cross Atomic Bomb Hospital in Nagasaki
	Noboru Yamaguchi Vice President, International University of Japan / Advisor, The Sasakawa Peace Foundation

International Members

	CNTRY		Name and Title
N W S	U.S.		Linton F. Brooks Former Administrator, National Nuclear Security Administration
			George Perkovich Ken Olivier and Angela Nomellini Chair / Vice President for Studies, Carnegie Endowment for International Peace
			Anton Khlopkov Director of Center for Energy and Security Studies (CENESS)
	RUS		Shen Dingli Professor and Associate Dean, Institute of International Studies, Fudan University
	CHN		Bruno Tertrais Deputy Director, Foundation for Strategic Research
N N W S	FRA		Trevor Findlay Senior Research Fellow, Department of Social and Political Sciences, Faculty of Arts, University of Melbourne
	AUS		Angela Kane Former UN High Representative on Disarmament Affairs
	DEU		Tariq Rauf Former Head of Verification and Security Policy Coordination Office, IAEA
	CAN		Mahmoud Karem Former Ambassador of Egypt to Japan, Former Member of UNSG's Advisory Board on Disarmament Matters
	EGY		

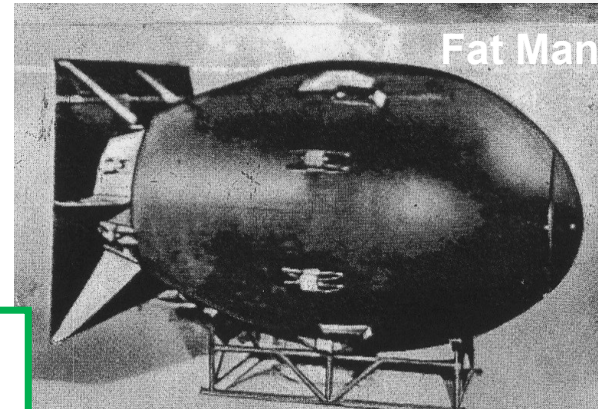


Little Boy

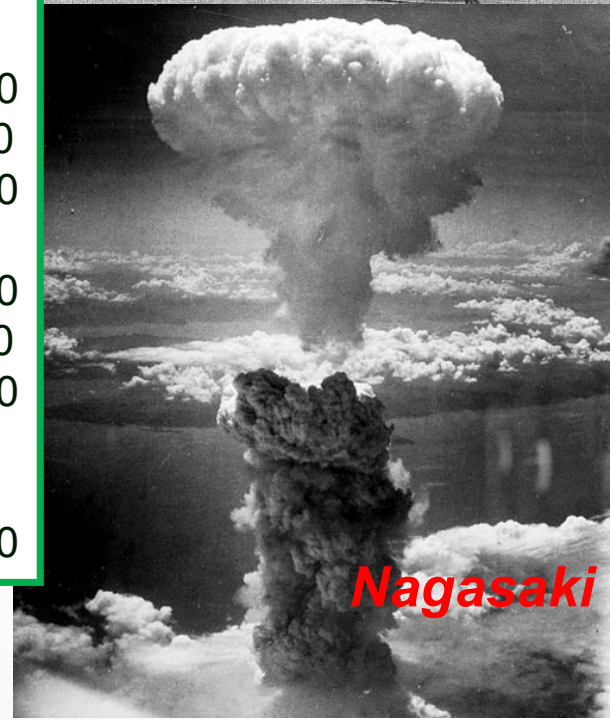


Hiroshima

No.2 16 kiloton uranium
(64kg; 850~900g detonated)



Fat Man



Nagasaki

21 kiloton plutonium
10kg(1kg detonated)

Immediate Casualty (Estimated)	
Hiroshima	
Population	350,000
Death	140,000
Injured	78,000
Nagasaki	
Population	270,000
Death	73,000
Injured	75,000
Total survivors	
Hibakusha	270,000

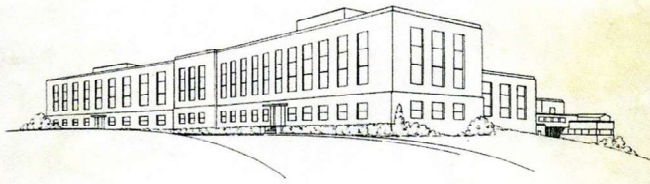
水素爆弾
1～100メガトン

**All atmospheric testing
= 29,600 Hiroshima bombs**

**= a Hiroshima bomb twice every day
for 35 years**



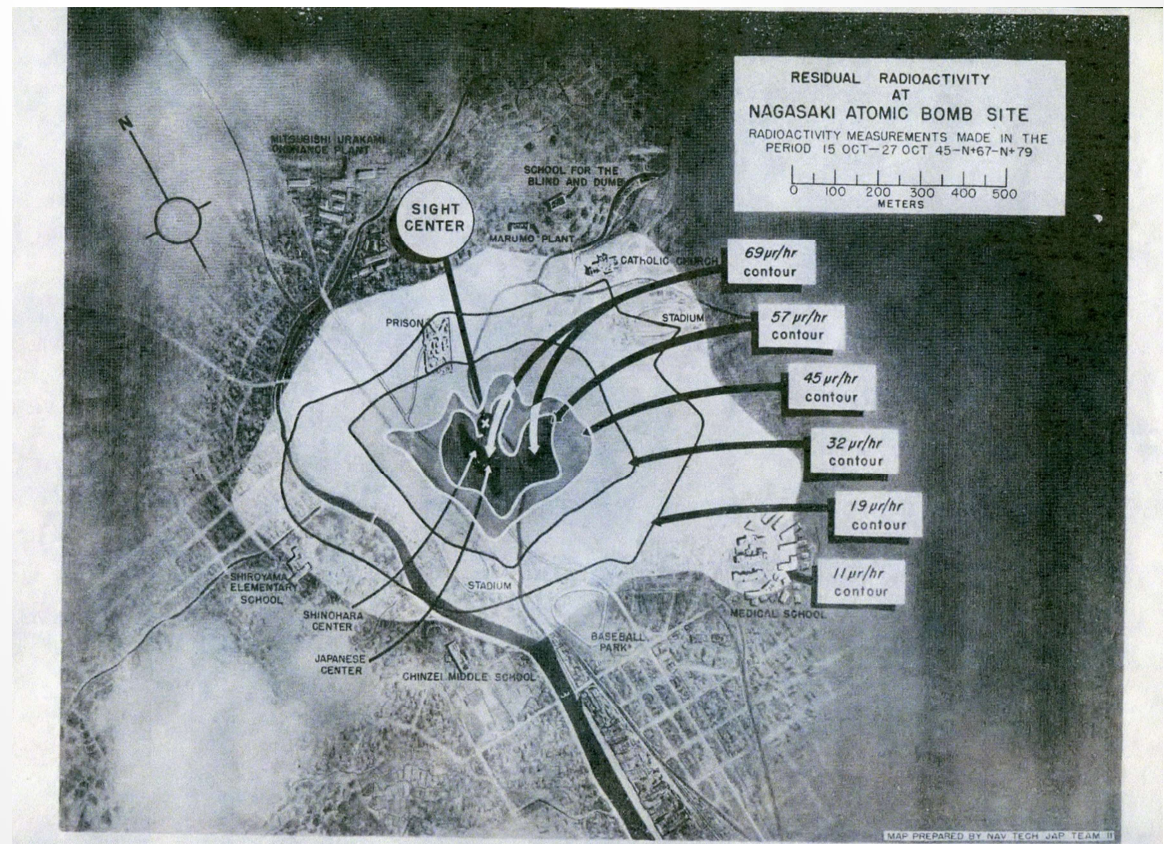
NAVAL MEDICAL RESEARCH INSTITUTE
NATIONAL NAVAL MEDICAL CENTER
 BETHESDA, MARYLAND



MEASUREMENT OF THE RESIDUAL RADIATION
 INTENSITY AT THE HIROSHIMA AND
 NAGASAKI ATOMIC BOMB SITES

NMRI-160A

米国海軍医学研究所
 長崎、広島の残留放射能測定データ



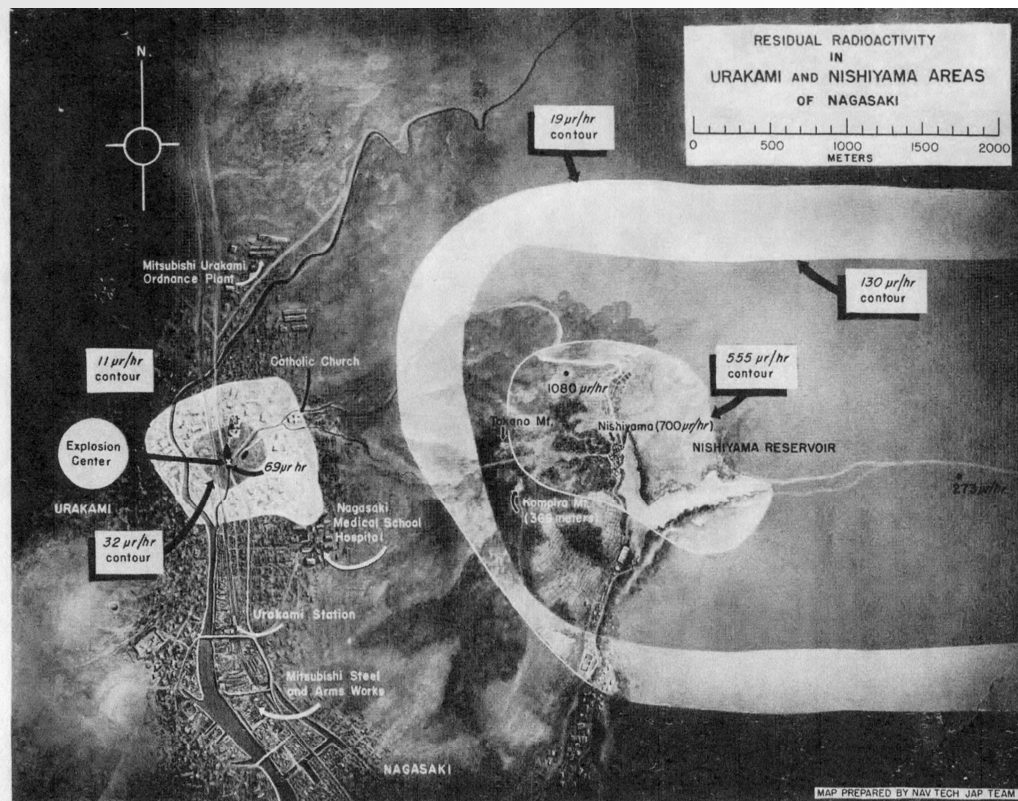


Figure 3

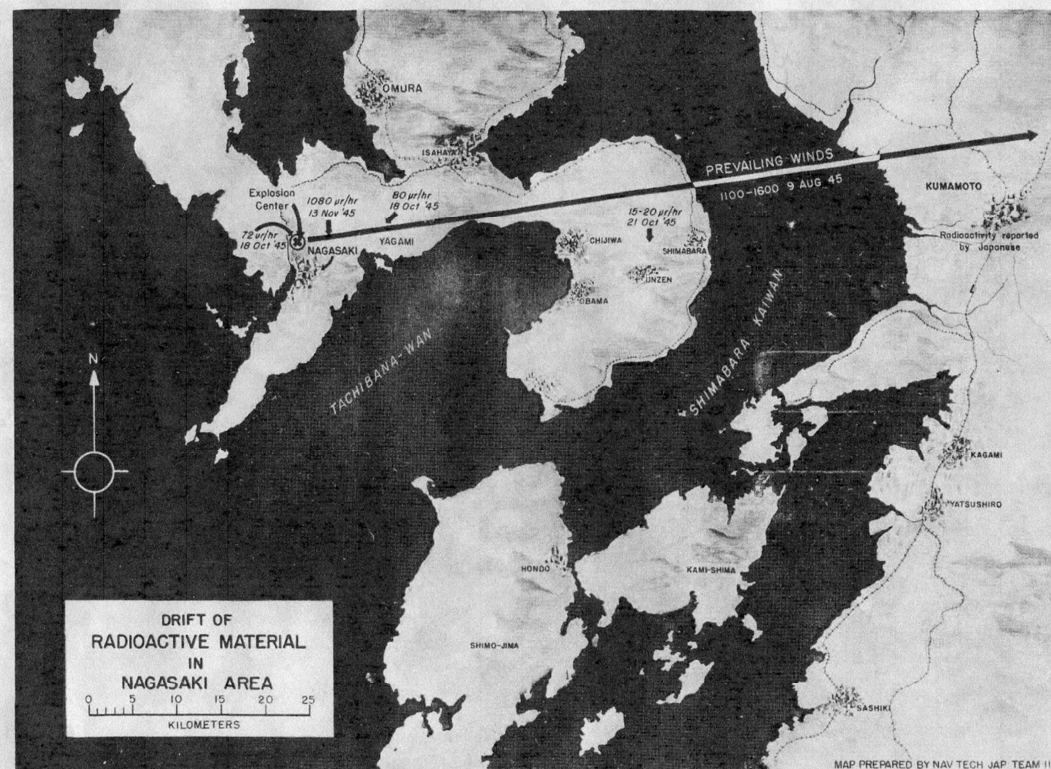


Figure 2

RESIDUAL RADIOACTIVITY
IN
HIROSHIMA
DATA TAKEN 1-2 NOV 45—H+87—H+88

0 250 500 750 1000 1250 1500 1750 2000
METERS

$\mu\text{r/hr}$ values are given beside
representative locations.
The 11 $\mu\text{r/hr}$ contour is
approximated.

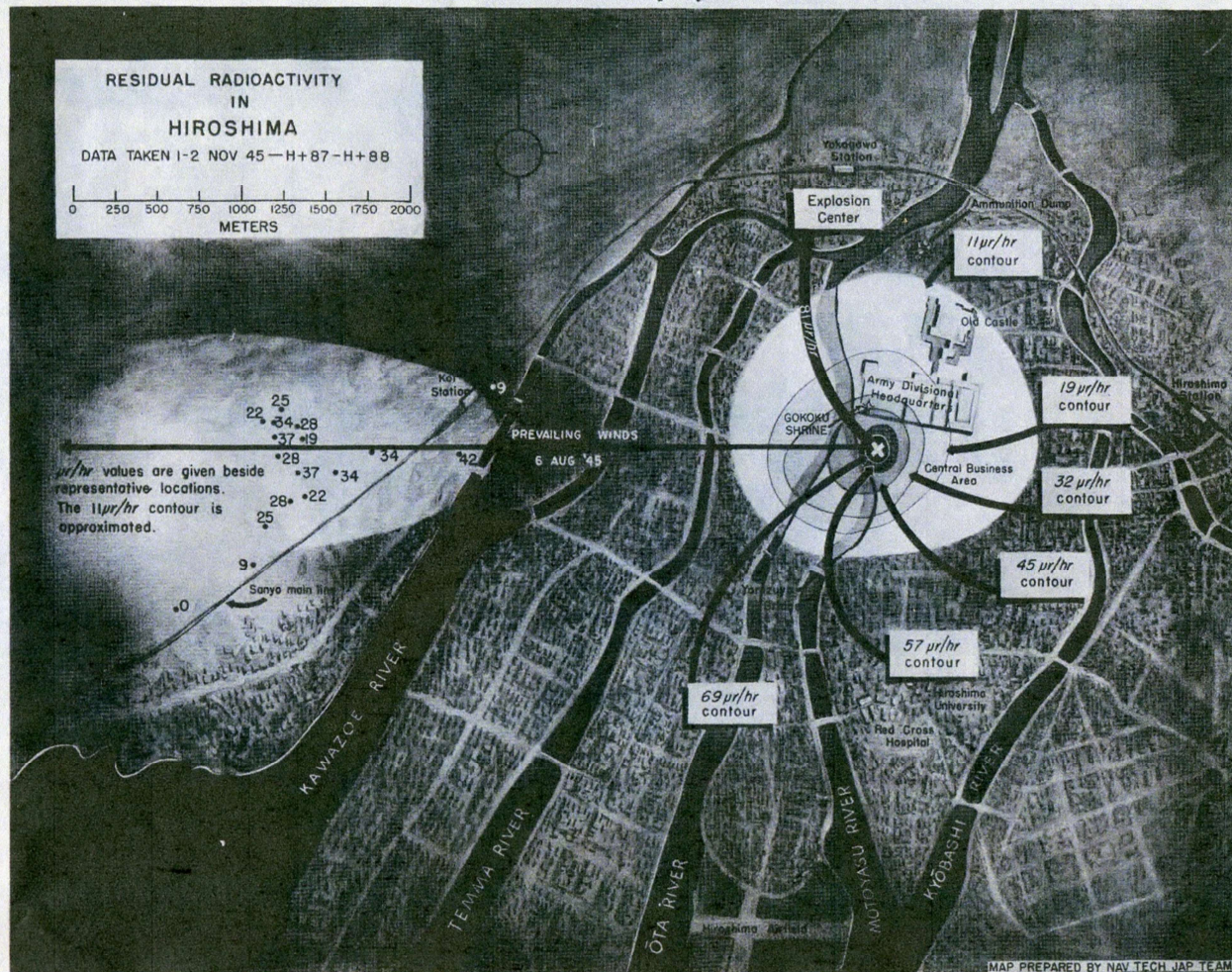
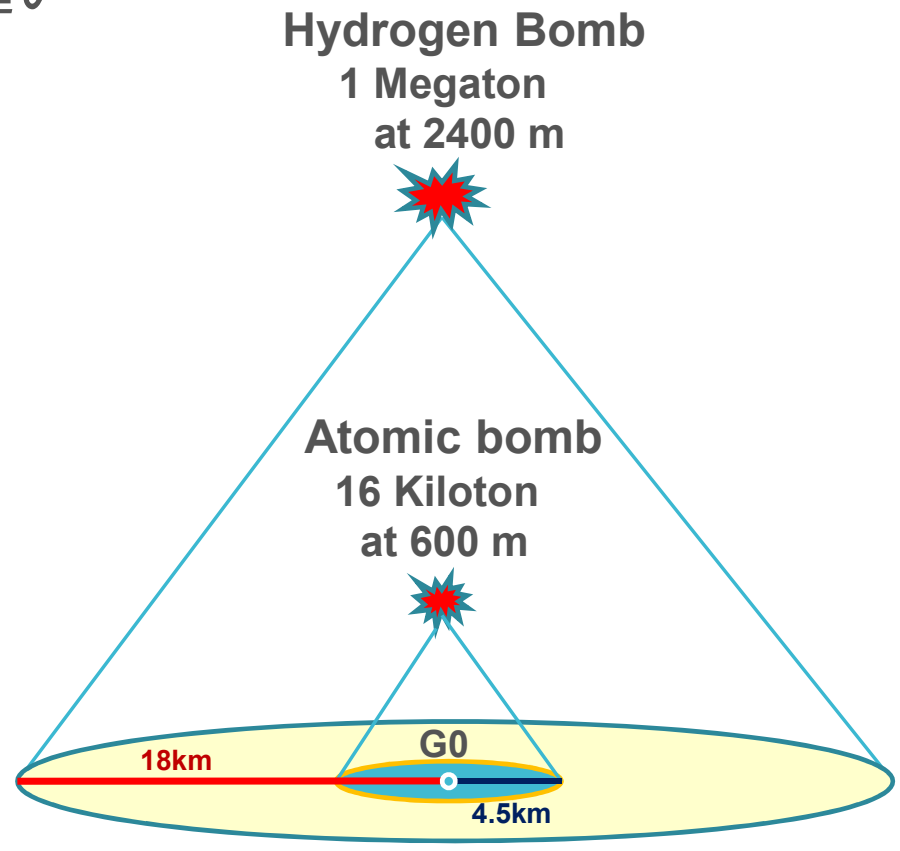


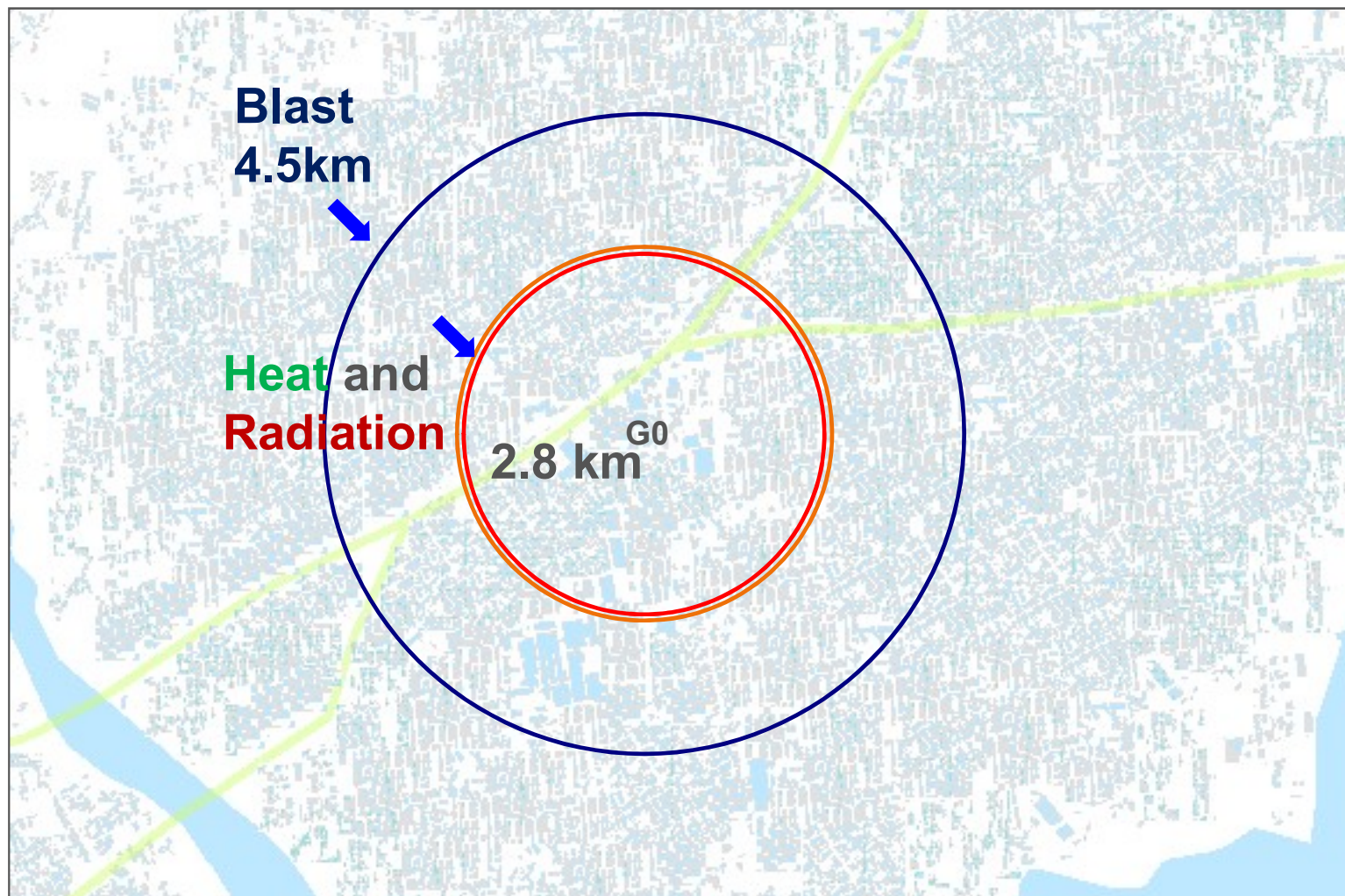
Figure 1

MAP PREPARED BY NAV TECH JAP TEAM II
NMRI-HADDEN '46

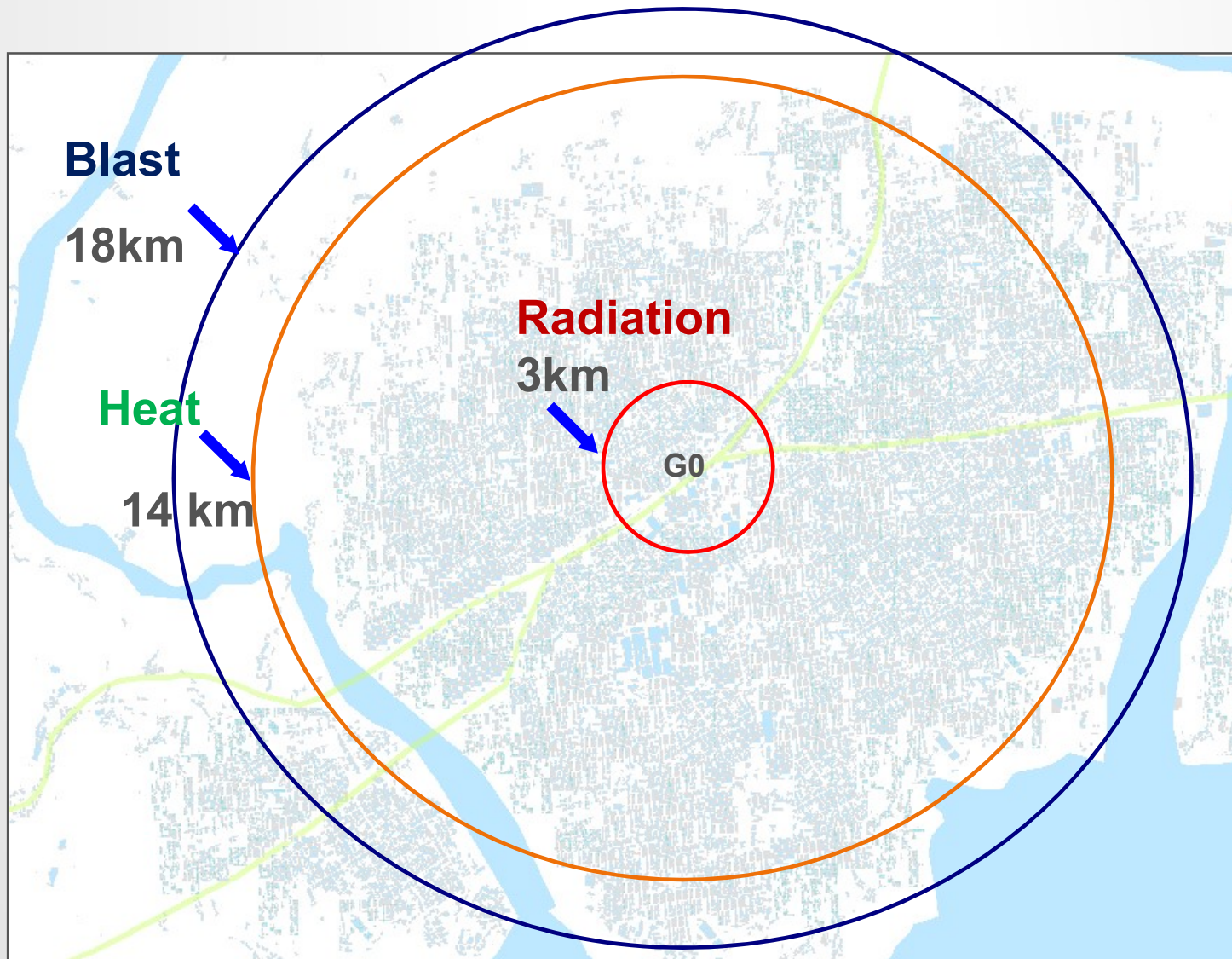
原子爆弾と水素爆弾の違い



**Nuclear detonations
Above a Virtual Modern City with
1 Million Population**



Atomic Bomb 16 Kiloton at 600 m



Hydrogen Bomb 1 Megaton at 2400 m

現状認識：分断された世界のための共通目標の模索

1. 核軍縮二つの潮流の対立

- ・ **核抑止政策をとる国（拡大抑止の国）**：戦略環境の悪化、核抑止が安全保障に資する
- ・ **非核兵器国、ヒバクシャを含む市民社会**：悲慘な人道的結末、即時の核廃絶の追究

2017.7.7 **核兵器禁止条約（TPNW）採択（未発効）**

賛成 122カ国 反対 1カ国 全核兵器国・日本など核同盟国は不参加

2. 核軍縮の停滞

- ・許容できない核秩序の崩壊
- ・NPT第6条に基づく「**核なき世界の追求**」は共通利益
- ・立場の違いを認め、なくすための共通基盤の形成：礼節、多様な意見の尊重（信頼醸成）

3. 橋渡し措置の取り組み

- ・**NPTの運用検討プロセスで、異なるアプローチの収斂を目指す：NPT PrepComにおいて**

前提：核軍縮・不拡散（NPT）体制の維持

- ・ 73年にわたる「核の不使用」＝ “いかなる状況においても2度と核兵器を使用しない”規範
- ・ **NPTは「核兵器のない世界」の共通目標を前進させる中心的存在**
- ・ NPTの維持＝全加盟国は過去の核廃絶へのコミットメントを継続し、運用プロセスの諸合意を実現
- ・ **中東非大量破壊兵器地帯**に関する会議の早期開催：核と化学兵器
- ・ CTBTの完全批准＝**核実験の不実行の規範化**
- ・ 米口の軍備管理枠組みは核軍備と脅威削減の基礎＝さらなる**新STARTの延長（5年）**
- ・ **JCPOA**（イランに関する包括的共同作業計画）の完全遵守：米国の離脱問題（実際に離脱）
- ・ 北朝鮮の核・弾道ミサイル開発危機＝平和的解決、検証可能かつ**不可逆的「朝鮮半島の非核化」**

橋渡しへの取り組み（I）

1. NPT運用検討プロセスの強化

全締約国の当事者意識表明、橋渡し案の提案（第2回PrepCom）、無条件の自発的取り組み

第3回PrepCom：核兵器国の核軍縮に向けての現実的・実践的措置についての情報提供

そのあと、核兵器国と、その他の加盟国と市民社会の双方向議論

橋渡し役の具体的取り組みのアウトライン

1）脅威とリスクの削減、2）核軍縮に伴う安全保障上の懸念への対処、

3）信頼性と透明性を高める（核弾頭削減、核ドクトリン、核政策面の透明性などの措置）

2. 橋渡しの基盤としての信頼醸成措置

核兵器国（拡大抑止国）国際安全保障政策における核兵器の役割低減に真剣に取り組む

核兵器国は、安保理決議984号（非核兵器国と非核兵器地帯条約加盟国への消極的安全保障）

へのコミットメント強化

橋渡しの取り組み（II）

3. 異なるアプローチを収斂させるための基盤作り

- （１）核軍縮の問題点：現在、安全保障を促進し、検証と強制の可能な核軍縮についての共通理解がない。
- （２）核軍縮の監視、検証、遵守のメカニズム構築：信頼醸成に必要なステップ
 - ・核兵器解体後、核物質の監視と検証について、相互に協力し、その方法をNPTの運用会議に報告する。
 - ・NPT 1条と2条に反する機微な情報の開示なしにできる検証活動を国連において研究、協議し、検討会議に報告。
 - ・法的拘束力のある義務の遵守を保障し、核軍縮が効果的かつ恒久的との自信を持つため強制の保障
 - ・高濃縮ウラン、兵器用プルトニウムの管理は核軍縮に不可欠。各国はその生産を終了する、しない国は説明義務あり。
 - ・核物質のストックについて最高基準の防護と危機管理の保障。
 - ・余剰の核物資（核兵器から）の不可逆的な検証可能な廃棄のための技術の開発
 - ・「核兵器なき世界」の実現には、検証、核兵器製造のための使用についての保障措置、破棄について合意する法的拘束力のある体制、が必要。

安全保障と軍縮にある「困難な問題」に取り組む

- ・ 核抑止の効用について **国家間に根本的相違**がある。相違を受け入れた上で調整。

核抑止は安定を促進する場合もあるが、長期的な安全保障には危険、すべての国はより良い解決策を追究しなければならない。

- ・ 核戦争には勝者はなく、戦われてはならない。
- ・ 議論に礼節を取り戻すこと。礼節なしの協力はいりえない。
- ・ 核戦争を遂行するドクトリンを控える。
- ・ 核兵器使用の脅威による威圧的行動を控える。
- ・ 橋渡し国は誠実な「対話のための場」を立ち上げる。

1) **効果的なベンチマーク Minimization Point**など核軍縮のプロセスや枠組みの創出。

2) 以下の「**困難な問題**」の**アジェンダ**を作り、**全ての国の共通基盤**を創る。

(1) **自衛権の問題**：**国家の危急存亡の時、限定的核威嚇/核使用を予想すること。**

：このとき、国際人道法、核爆発の人道結末、文民・非戦闘員・環境の保護を考慮しながら。

(2) **国際の平和と安全を保持しつつ「核なき世界」の実現に当たって、人間の安全保障を担保する。**

3) 核軍縮が直面している「**究極のジレンマ**」の解決を追求する。

すなわち、すべての国の安全を保障しながら、**レジームの下での義務の遵守と適時の強制を両立させる。**

賢人会議の提言を実行すべき 日本政府の課題（私案）

国連の会議および日本独自の会議の開催

- 1) NPT運用会議：第2回PrepCom、第3回PrepComへの提案
- 2) 中・長期的実行案の提言を継続し、NPT運用プロセスに還元
- 3) 日本独自に国際フォーラムを開催（広島・長崎が最適）
アプローチの異なるグループを招いて
- 4) 橋渡し役の国のグループを形成：
「困難な問題」を討議するカンファランスの開催

目標：異なる2つのアプローチの収斂
NPTと禁止条約の相互補完体制の実現
究極的にはNPT全締約国の禁止条約加盟の実現
核軍縮が具体的に進捗し、核なき世界が近づく